

## 2025. 7. 31 教職大学院で学ぶ

夏休みが始まり、教員はいろいろな研修に出かけていきます。

今年度も福井大学連合教職大学院の夏季集中に本園職員も参加しています。

本園は4名、学校改革マネジメントコースの院生やスタッフとして立場はいろいろですが、他の院生さんとともに学ぶいい機会でもあります。

年間を通してカンファレンスに参加していますが、特にこの夏休みはじっくりと時間を取り考えていきます。実践の長期的な構成・省察・理論化、再構成の展望サイクルを実現するカリキュラム・デザインの実現として、3日間のサイクルを合計3回。サイクルごとに内容やテーマは違いますが、9日間じっくりと理論書を読んだり、また自分なりに感じたり、まとめたりしたことを、こ保幼小中高、行政など多様な職種の方と語りあいます。最初に連合教職大学院教授 岸野麻衣先生から、「様々な実践書をじっくりと読み進めていく中で、その状況に自分の身を置きながら、その場の子供たちの姿を見取ってみる、実践者のその当時の判断のレポーターに出会いながら、私ならこうするか、と自らを問い直していく。その実践者の脈略をじっくり味わえるような、そのような時間にしてほしい。」とありました。このような時間は、日々の時間の中ではなかなかとることもできません。

また、異校種の先生方に幼稚園での実践や実践書・理論書を読んで感じたことなどを話すときは、幼児教育についてわかってもらえるように、それぞれ心がけます。そのことで、自分の頭の中も整理されていく感覚もあります。自分自身にとっても改めて幼児教育を捉えなおす機会にもなる。

さらに異校種の先生方からの問いや感想を聞くなかで、今まで自分が思いもしなかった感覚を得たり、新たな発見や気づきがとても多くあつたりします。夏季集中のカンファレンスの中で、高校の探究科の先生とグループで話していた時、「探究をいろいろとやっているが、小中もいろいろやっているし、手詰まり感を感じる時がある。そしてグループで何かしようとするグループが故の難しさややらされ感を感じることも多くある。一人の先生が8～9グループと担当することもあり、さらに難しい。今もう一回原点に戻って、一人一人の『好き』から始めてもいいかなと思っている。それが自分事となることでどんどん探究は進み、そこから必要感をもって人とつながりながら協働探究へと進んでいくことがいいのではないかなと思っている。」と伺ったとき、まさしく幼児教育と同じだ！私たちが大切にしていることと同じだ！と嬉しくなりました。

この教職大学院も県内の幼稚園、こども園、保育園の先生方（主に管理職）も毎年増えています。そして、県外の幼児教育関係者の方も院生として入学される方も増えてきています。教職大学院の語り合いを通して、自らの保育観やフレームがとても揺さぶられます。そして、そこから自分が本当に大切にしたい事や新たな展望が見えてくるととても貴重な時間でもあります。

多種多様な先生方とこの教職大学院という学びの場を通して語り合い、これからもみなさんと一緒に高めていきたいと思います。

